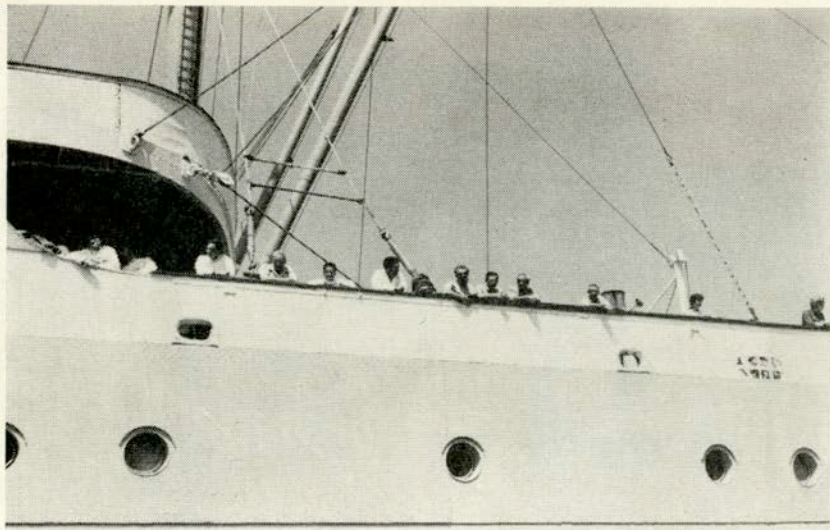


れんさいずいそう IV

# ミナト哀愁

林田重五郎

〈随筆家・写真も〉



入港のとき人の顔は美しい

APLで帰国した息子の出迎えて、久し振りに第五突堤へ行った。帰宅は摩耶大橋を渡るコースを取ったが、摩耶埠頭方面に広く大きく延びたミナトの姿にも驚いたし、それにいろいろなカラーで装った野積みのコンテナの美しさにも感嘆した。いまのミナトには昔とは全く別なすばらしさがある。



海岸記者を勤めて、毎早朝からミナトをうろついたのは、三十数年も昔である。ちょうど第五突堤が完成したところで、SとUの上屋など真新しかった。ただし当時は、この大突堤へ着く船が少なく、あまり使われぬ突堤などの記事も書いた。いまからいうとウソのような話ではあるが……。

やはり当時の主力は第一―四突堤、そして海外旅行がいまのように航空機ではなく、大部分が船の時代であるから、船客と、出迎え見送りで、神戸のミナトは、現在の羽田空港のように人間で溢れていたものである。

昭和十年中の神戸港の出入外人数があるが、前年に比べて一万五千人増で十万人、一日平均三百人である。もちろん船員は除いての話だが、入国

二〇一二二人、出国一三四四〇人、通過四七四九  
四人、上陸禁止二〇二四三人という数字が出てい  
る。国別では中華民国八六四四人、満州国（こん  
な国もあった）一四五六人、英国三〇〇〇人、米  
国二八四五人、ドイツ五九八人、フランス四二四  
人……などである。このほかに何倍かの日本人が  
出入するのであるから、ミナトは人の渦である。  
なお右の数字で上陸禁止の数が多いのは、あの  
ころの世相を語るものであろうか。不良外人とし

て追放された男を、神戸港から大阪港へと血眼で  
追っていた日本の娘さんの話もあった。しかしそ  
の外人はついに再上陸を許されず、別れは涙にな  
ったはずである。

◇  
中突堤—いまの中央突堤は台湾航路の内台連絡  
船、第一突堤は大連航路の日満連絡船、それに上  
海航路の日華連絡船……これが二、三日おきに出  
入する。もっともニュースの面からいうと、入国  
船は門司か長崎を経由してくるので

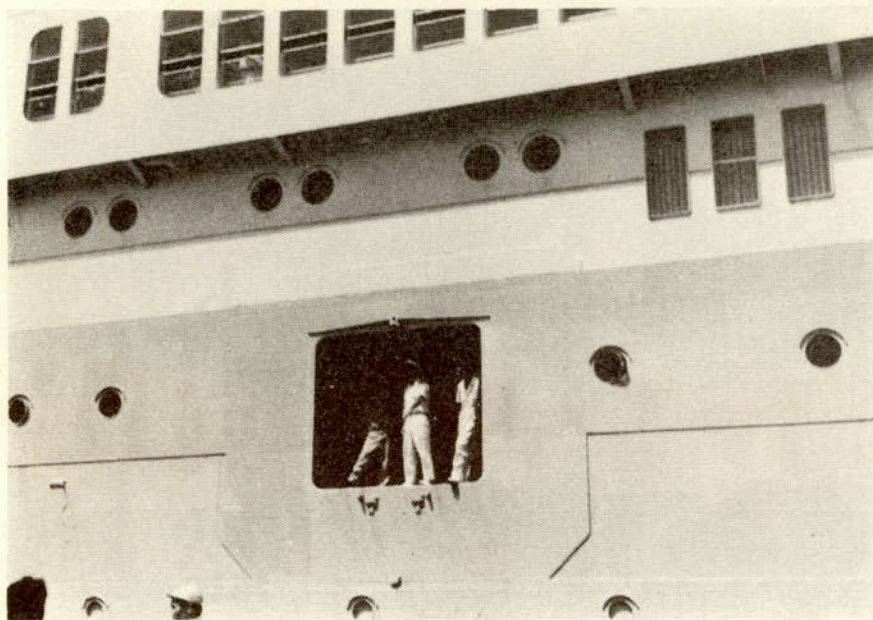
大した獲物はなくむしろ出港の方が  
警戒を要した。船客名簿を目を皿の  
ようにしてにらんだものだ。

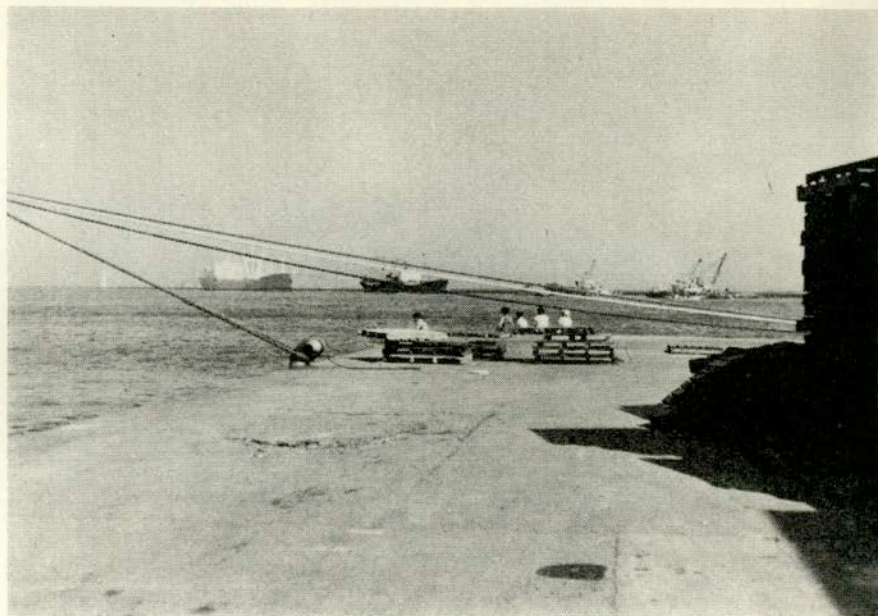
数は多いが、これらの近海航路はい  
わば従、ミナトの花は欧州メールで  
あった。二週間に一度、第四突堤か  
第三突堤から出入したが、その日は  
特別列車が突堤まではいってくる。

ヨーロッパへゆく——これは当時は  
夢の世界である。晴衣を着て船出す  
る人、見送りの方もみな満艦飾の服  
装である。はなやかさと明るさでミ  
ナトが輝く。

そんななかでバイオリンを二提も  
って勉強に行った諏訪根白子さんの  
セイラー服姿が清楚なものとして、  
いまでも目の中に残っている。昭和十  
一年十月十二日、この日は入港した  
欧州メールでシャリアピンが来朝し  
ている。出入した船の名は箱根丸と  
鹿島丸。欧州メール——郵船の独占

### 前 分 一 岸 着





潮風は昔のまま<第五突堤>

郵船の浅間丸などに、いまも白い船体のプレジデントラインなど……。

出帆後も、心に長く尾を引いたのはブラジル移民船だった。商船のぶえのすあいれす丸、ありぞな丸……。

その日は山手の移住教養所から第四突堤まで、移民達の長い列が続く。

そしてほぼ満船で出帆、地球の裏側、いまならば三日とからぬブラジルだが、当時は再び日本を見る日もない永別である。送る方も送られる方も、必死の顔つきである。昭和十一年九月が百七十一回だから、なんどこの味を味ったことであろうか。それだけに、その年の秋、ブラジルでの成功者百数十人が故国再訪で神戸へ着いたときは出迎えも千人、書いた記事も喜びでおどっていた。

ほかに南極から鯨を満載して図南丸がはいったり、観艦式で鳥海、足柄が第三突堤に、比叡が沖のブイに着いたり、ミナトは人間で賑わっていた春秋はいまと同じ観光船の来訪。

航路であったが、この二船のほかに靖国丸、照国丸、伏見丸、笠崎丸、白山丸、榛名丸、香取丸と数える大船隊、なつかしい船の名に、ドラの響きの思い出が重なるのである。

日本船だけではなく、英独仏の亜欧航路の船もはいる。シャルンホルスト、ポーツダム、ピードーメルなどの名は覚えておられる神戸っ子も多いであろう。それに横浜経由なのであまりニュースバリューはなかったが、太平洋航路の豪華船――

しかし時代は移った。人間は空便に、貨物は船便に――それはそれでよいのである。その貨物もコンテナー中心に――これも進歩であって、昔は懐しむだけでよいのである。昔を今になどと考えるては逆行であろう。久し振りの第五突堤日曜日だったためか人影は税関構内一带まばらだった。そして突堤の潮風だけが昔のままであった。

# 人類の 月着陸に想う

皆川 理

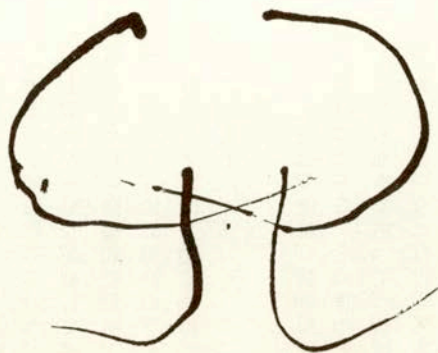
え・津高 和一

アポロ11号による人類初の月着陸の壮挙を伝えるテレビ放送、このすばらしい「宇宙科学ショー」に文字通り、世界中の何千万、あるいは何億という人々が目を奪われ、そして新たに現代科学技術の恐るべき進歩に驚嘆したにちがいない。確かに人類の画期的な飛躍であり、大きな意義をもつものと思われる。

ふりかえて見ると、第2次世界大戦後、戦時中ドイツの開発したV2ロケットの技術を受けついでソ連が、今から12年前、すなわち一九五七年、スプートニク1号による最初の地球を回る人工衛星の打ち上げに成功して世界をアツといわせた。特にそれがアメリカに与えた衝撃は甚大であった。大戦中連合国の全知脳を結集して開発した核兵器を中心とする軍事力において他を圧倒し、核大国であるソ連にも、この面で一步先んじていたアメリカは、その運搬手段としての大陸間弾道弾（ICBM）での劣勢をはっきり見せつけられたことになるからである。当時アメリカはまだICBMを持たず、スプートニクによって誇示され

た、ソ連のこの面での軍事力は、核弾頭付きの兵器が直接アメリカ本土をねらうことができるようになったことを意味し、精神的、戦略的に大きな衝撃を与えた。すなわち当時のロケット開発は軍事と直結していたわけである。そして冷戦下にあった米ソの軍事ロケット開発競争の副産物としての宇宙開発が発展してきたのである。従って宇宙開発という名の下でも、最初はすべて軍事的効果と直結して考えられた。人工衛星は、常に地球の周囲に配置されている水爆や、有人攻撃基地といった考え方に結びついていた。

しかし全人類を破滅に導くような宇宙開発は世論の反撃にあったことは当然で、従って宇宙開発は直接軍事と関係のない、宇宙科学探究を表面の目的として、その実、政治的影響力を増大するための、すなわち国の威信発揚の、手段に変貌して



いった。そして宇宙天体の非軍事化を規定した、国際間の平和利用条約が成立し、宇宙空間の調査研究には国際協力を奨励すると定め、天体は地球上国家の主権の対象とならないことなどが宣言されている。すなわちここでは競争ではなく、協力が期待された。にもかかわらず今回月に着陸した宇宙飛行士が、まず星条旗を月面に立てたり、前にソ連が月に国の紋章を送り込んだりしたような行為は、科学の進歩に立ち遅れた政治のあさはかさを示すものだが、わずかに残された世界人類の協力の希望は、今回月に持ち込まれたペナントにしろされた姿勢の中に見出される。よいことはたゞえささやかでもそれを育てて行かなければならぬ。

テレビに見入ったすべての人々は、今や地球を宇宙から眺め、それが太陽系の一つの美しい惑星として、客観的に眺めることができたはずである。これが契機となって、現在の地球上にあるすべての物の見方、特にイデオロギーの違いに基づく国家間の相克といったものについての考え方も、自ら変わってくるであろうし、また、変えて行かねばならぬものではなかるうか。そうすればベトナム問題も、貧困の問題も、やがては雲散霧消して、アポロ計画に使われた八兆円を越える巨費の問題など論ずるに足らぬものとなるであろうどこかの国の首相は月着陸に関する記者会見で、自国の科学技術の遅れを取り戻すために「独自の力で人工衛星の打上げを計画している」と胸を張って述べてみたり、また、ある著名な政治評論家は「これは科学の独走であり、いたずらである。人間に何の役に立つか」と大見得を切っていた。

政治家の意識の低劣さを自ら示したものというべきではなかるうか。

さて話は変わるが、世上よくこの月着陸が、コロンブスのアメリカ大陸発見や、それに続くマゼランの世界一周に対比されて、月を第8の大陸などと呼んでいるようであるが、これは15世紀から16世紀にかけてのスペイン、ポルトガルの国益追求のくわだてであり、計画の事情に似た所があるが、その得られる結果は全く異なるものといわねばなるまい。これらは行く手に人類の生活を豊かにする生活環境と豊富な資源があった。月の場合、事情はまったく別である。月の表面には人類生存に不可欠な空気や水はまったくない。また、月の昼は地球の時間にして2週間、温度は一二〇度Cの高温になる。夜はまた2週間続く、そして温度は氷点下一五〇度C以下の低温となり、夜と昼との極端な温度差にはまったく中間的な段階がなく、その上、月と地球との間には40万キロにおよぶ危険に充ちた空間が横たわっていることを考えるべきである。遠い将来、科学技術はこれらの条件を克服することができるかも知れないが、近い将来の人類の居住とか資源の対象などは考えられない。夢を持つのも結構だが時には科学的に冷静に考えて見ることも大切なことではあるまいか。

何はともあれ今回の人類の月着陸はアメリカの国家の威信の問題は別として、宇宙科学の進歩への貢献は計り知れぬものがあることは確実である。そしてこれが全人類の協力に対する意識の高揚の契機となることを期待したいものである。

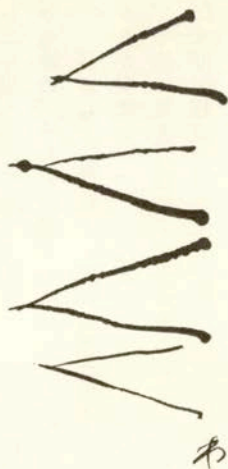
△神戸大学理学部教授▽

□ 隨 筆 □

# 旅行者

重 森 守

え・津 高 和 一



わ

赴任して半月後ぐらいだったか、いきなり電話をいただいた。「久しぶりでんな。もう十年も会うてまへんやるか」——例のゆったりした調子で、本当に歓迎されているのかどうかさえつかみかねる。そんな口調の電話であった。

春さんは善人である、という人は多い。が、新聞記者にとっては、なかなか人が悪いともいえるなせなら、まさに十年ぶりの再会なのに、それを記念して二時間余も酒をくみかわしたのに、春さんは一言も、あの大事業である「遙かなり墓標」の中身について私に説明してくれなかったからである。たしか、深夜の別れぎわにボソッと「こんど、私の小説が本になりますねん。できたら一冊あげますわ」——予告篇は、それだけであった。

「神戸っ子」からある日、突然「なにか書け、といってきた。が、神戸へ着任したのが、この四月。六甲山と港めぐりの遊覧船以外には、この町について何ひとつ予備知識がなかった。だから、何を書くにもデータが乏しすぎる。ここ半年分の「神戸っ子」を開いてみると「神戸よいところ」の礼賛論やCMつき紹介が多いが、同調できる自信はさらさない。土地カンがないのなら人間を、と思いつかへてみた。だが、これも不毛に近い惨状である。思いあぐねたすえ「春さん」にぶらさがることにした。

郷土作家春木一夫氏、なんて書いても、いっつうにピンとこない。やっぱり「春さん」である。

先月の「神戸っ子」に春さんが寄せた一文によると、神戸新報社（出版元）の出した「遙かなり墓標」発売の広告をみて、朝日新聞が気づいた、とある。たしかにその通りなのだが、これにはもう一つ伏線があった。但東町の旧高橋村開拓団が終戦のとき大変な目にあったらしい、というウワサは、すでに私が着任する前に、朝日の神戸支局でキャッチしていたのである。さっそく腕ききの遊軍記者が現地へ飛び、調査や取材にかかった。だが、高橋村の人たちの口は固く、真相がつかめぬまま引揚げざるを得なかった。真偽のわからぬ話に、長い時日をはかるほど戦力の余裕がなかったからでもある。「同じようなことをどこかの小説家も調べてる、という話でしたけどねえ」——その記者の、みやげ話のひとこまだった。

本の出版広告、みやげ話の記憶、そして春さん

の存在。新聞記者なら、これを結びつけて飛びつくのは当然の話である。春さんや関係者からの取材。写真集め。聞けば聞くほど、話の内容に重さが増した。一冊の新刊書の紹介にしてはなるまいその中身の社会性を全国に強く訴えるべきだ。私たちの結論は、こうだった。

取材を終えた夜、たまたま作家の足立巻一さんと会った。初対面の足立さんは「あの話なら、社会面むきですよ」とつぶやいた。さすがは元新聞記者。全くこちらと同意見なのに大いに力を得た。記事は当然のことのように、社会面(全国版)を大きく飾った。現地での講演会、本の再版、オリエンタルホテルでの記念パーティ、合同慰霊祭……。当方の意志とは何のかかわりもなく話題が話題を生んでいくのを「火つけ役」の私たちはただ見守っていたればよかった。「エライコトナリマシタ」の春さんは「新聞、とくに本紙(全国版)の威力」について、いまもしばしば口にする。だが、それは本末転倒というものだろう。威力があったのは、高橋村の人たちが背負いこまれた歴史の重みであり、それを記者が足元にも及ばぬ粘りで発掘しきった春さんの根性そのものなのだから――。

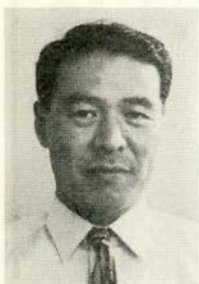
◇  
全国紙の記者たちは、その町にとっては大抵が「旅行者」に過ぎない。せいぜい二、三年で、また新しい任地へと旅立っていく。しかし、そうした宿命のもとで、彼がいかに早くその土地になじみ、住民の心を心とするか、が業績の分れみちになるものだ。いわゆる郷土作家である春さんと接し、旧高橋村の人たちと対話をかわし得た朝日新

聞の何人かの記者は、その意味でも大変な勉強をさせてもらったことになる。

私自身、「神戸支局長」などという重苦しい肩書を背負わされて、この町へ来てから五カ月になる。会社の制度、あるいは慣習からいうと、神戸支局長になれば、朝日労組の組合員ではなくなり、いまの流行語でいう体制側に組込まれる。それは仕方がないとしても、新聞記事を書くことが原則として許されない。「おれは原稿を書くために新聞社へ入ったのに」と、泣きわめいてみても後のマツリ。仕事といえば、来訪者のお相手、対外的な会合への出席、ハンコつき、人事や庶務的な問題で本社との折衝、陳情：要するに、もはや新聞記者でなくなった自分を、日夜発見するばかりである。だが、私はまだ若くて(〆)血の気が多いではないか。それに、どうみても管理職、行政官のウツワではない。「おれにも書かせる」「現場へ飛ばうぜ」——ことあるごとに血が騒ぎ心かはやる。そういう気にさせるだけの魅力が、この町に立ちこめているようでもある。

私は、だから支局長などという面倒くさいヨロイを脱いで、神戸の町と人に接したい。執念深く高橋村へ通った春さんのように、ひとりの記者としてこの町の心のひだまでのでいてみたい。

△朝日新聞神戸支局長△



佳き日を華やかに美しく…

# ウェディングケーキ



★洋菓子の★

# ヒロク

元町店 三宮店 さんちか店 そごう店  
33-2340 32-1227 39-3474 22-4181(代)

KOBEセンスを生かした  
信用と伝統の店



▷ゴルフコーナーには、No.1のダンロップ用品を中心にあらゆるゴルフ用品がそろっています。

▷タカハシのオリジナル・バッグコーナーは定評があります。



バッグとゴルフ用品の店

# タカハシ

神戸・元町3丁目 TEL 33-1172・7782



# 兵庫運河

ブオーと神殿に深くこだまする釜鳴が、数百という提灯の下をくぐる善男善女の耳を庄する。茅の輪はシャッキリと青葉を見せ、線香の煙が大被詞にのって夕闇に逃げ、まだ暑い夏の宵の、狭い境内に続く御百度参りの鳥居を透して、神殿を拝廊する信者の唱和に混じる。水無月の夏越の被する人は千年の命のぶというなり、と二度唱えて茅の輪をくぐる松尾稲荷は、湊町を東に入る。

その名の通り潮風が東南に流れる街路をもつ湊町は、川崎重工の朝夕のラッシュで道幅が狭く感じるほどだが



原木をいかた師の掛け声に合わせて陸揚げする

神戸駅から市電で相生町を出て、二度カーブしてこの湊町にいたると、そこにはいつか神戸というローマ字的感覺の自然は姿を消していて、実際、海も山も見えない、ただ埃っぽい空が見えるだけという、活況というには距離のある混雑した往時の兵庫がある。そしてその兵庫という語感にまつわる地の軸は、探さなくても到るところで出会っているのであるが、兵庫という言葉から、兵庫の津、兵庫番をはるか通り越して、大輪田の泊に想いを駆せるか、もっとさかのぼり神功皇后の三韓征討を歴史から連想させる現代っ子に

とっては、ただ柳原の灯が消えたことをいにしえの兵庫への袂別とする世代とちがひ、その地の軸は、いたずらに迷路としか思えない街並だ。

しかし、それを少し南に越えれば、幾重にもなった小路と工場群の機械のにおいの中から、突然、巨大な鉄の塊が雄然と視界に入り、夏の暑さと潮風で完全に錆びているが、海に浮く鉄舟・プッシュオーバーだということが判る。そのドックは、解と外国船を前方に兵庫突堤を背景に持つのだが、そこにまつわる

鉄線と変色したロープ、それに上半身赤銅色の労働者が補修にかかっているのを見ると、狭いスペースに連らなるドックだけに、クリム色の外国観光船、巨漢といえるコンテナー船のつく神戸港を見ている眼には、ああ、ここに何かがあると思わせるに十分な人と物の配置がある。これが兵庫なのかもしれない。

この神戸と兵庫の語感、技術の進歩の差をあらわしているのだろうが、それは裏返すと、その裏に潜む人的努力の大きさを映している。それはまた、人間臭さの大きさも映している。

兵庫運河は、この港の潮をひき入れていた。そして、この兵庫の地を流れているのだが、実は激んでいる。潮風はどことも同じく水面を撫でるのだが、動かない。

沢本博夫。十九才。昨春兵庫工業高校を卒業する。松原通りの歯車製造所に勤務するが三カ月で、何となしに面白くなって同僚二人と辞め、今夏から神戸でコンピュータを勉強しに行くのです、とにっと笑った。そしてその彼が、出会いも全く偶然で、たまたま所在なげに原木の積み出しを同じように夕暮れの中で見ている、ふと声を掛けられた相手なのだが、四日後に、兵庫運河が三角形の船溜りを経て北上する、いわゆる支線に架かる、高松橋から二つ北の橋の上から、直径一メートルはあるるかと思われる原木を都合五本を一束にして、次々と四隻曳航してくるのを見た。その後日、彼が、夜間はコンピュータ学院とやらに出かけて、昼はいかだを曳航しているのが分る。それは運河独特のいかだ師とは程



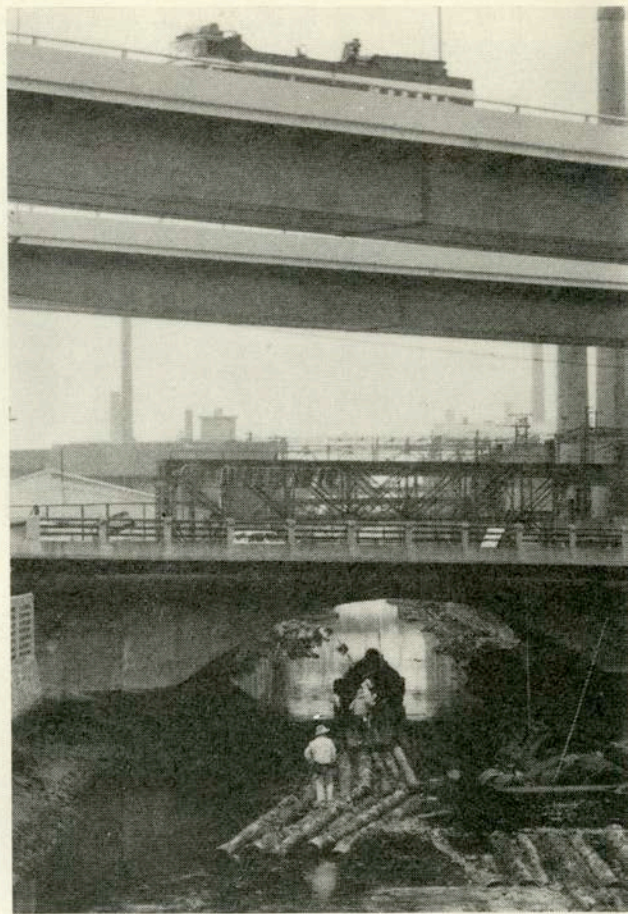
今や運河は、完全に貯木場となった

遠いが、工場用排水の流れこむ中を、油で顔を黒くして後方のいかだを見やりながら舵を取る表情は、若いにしては疲れがでている。給料、二万円弱というが、朝早くから、しかも不定期に仕事を持つだけに体がなまる。兵庫運河に関係する七軒のいかだ業者の一員である。運河は今や文字通りの水ではなく、水に浮かぶ原木で生活している。

兵庫区は地図屋泣かせの区域で、山に通じる坂道を知ってる者には、国鉄から阪神高速道路を下すると、道を歩いているのに方位がつかめなくなる。地図で見ると、街路は山麓線でなく、正確に南北に位置している。ところが、兵庫運河は山麓線に沿っているのだから、運河に到る線が複雑で、それだけでも運河の海上交通と両側の陸上交通との機能がつながっていないことが分る。

運河のイメージが、遙かスエズ、パナマ両運河につながる人は、凡そ兵庫区の三つの運河を口にするにはできないだろう。

成立順序でいえば、新川運河、兵庫運河、荻藻運河の三つだが、いずれも同じ潮の流れであるので、兵庫運河という場合、この三つを含めて考える方がよい。ただ、厳密に言えば、兵庫運河とは、明治二十六年末の兵庫運河計画書によると、本運河は、八部郡林田村大字東尻池村地内の海岸に起りて、兵庫新川に達するものを本線とし山陽鉄道停車場附近に起りて、南の方本線に達するものを支線とす。本支線分岐する所と、支線の起頭とに船溜りを設く、とあるから、これだけで七十余年の隔世を



高速道路、橋、運河がそれぞれの時代を語る

感じさせる。

兵庫の歴史は湊川の歴史でもあり、地名はそれを到るところで由緒づける。そして、そもそも兵庫運河の起りが、和田岬を航行する船が、強い東南の風が吹く度に難破し、積荷のみならず人命を犠牲にするに到って、それを防ぐことが目的であるから、その和田岬が、そこを流れる湊川の三角洲であり、同時にその川が、歴史をかえて今の東川崎町に流れて洲をつくり、それが兵庫運河完成後三年目にして、現湊川に付替えがなされたことを知るのも興味深いことである。それは明治八年の生田川付替えと共に、当時の自然の猛威を物語っており、兵庫運河はそれを背景にしている。

明治四年五月、兵庫地方を襲った大暴風雨により、難破船が兵庫港において五八〇隻、従って船主の損害が莫大に上り、被害者はその上、救助資金にあたる浦仕舞金の面に困窮に陥いるなど、嵐のごとの生活苦があった。和田岬の強い潮流と初秋からの波浪により、解同然の当時の船にとっては危険の上もないことだった。これ



が歴史的に、平清盛をして大輪田泊の二度にわたる大修築として山を崩り経ヶ島を作らしめたのである。

時に明治、兵庫南組名主であった若冠三十才の神田兵右衛門（天保十二年〜大正十年）が、想を起って敢然として、破産寸前に至るまで打ち込んだ事業が、兵庫運河の前身とも

いうべき新川運河の開鑿であった。つまり今の東尻池から南逆瀬川町の第五橋に至る兵庫運河と、大輪田橋を中央に、中央卸売市場を囲む新川運河の両方を結ぶ構想が、既に明治四年に神田兵右衛門の胸中にあつたのである。

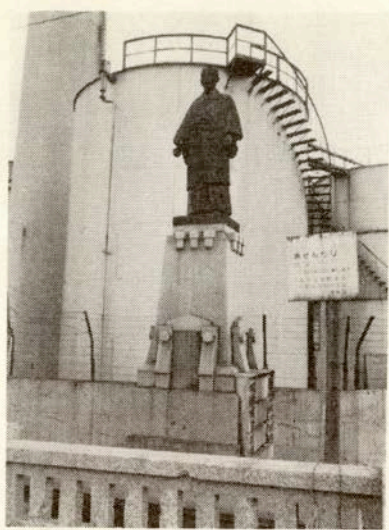
かくて明治九年五月一日、起工式から二年三月にして新川運河が竣工した。そしてこの構想が、明治十年に兵庫の大地主、二十一才の池本文太郎と三十四才の八尾善四郎の三人に受け継がれ、私財を投げうってまで赤貧に落ち、山師とののしられながらも同志を説得し、遂に明治二十八年十一月、武井守正、近藤薫、谷勤兵衛、藻川豊三郎などを発起人として神明町に兵庫運河株式会社を創設された。資本金三五万円、七千株を発行した。

工事の概要は次の通りである。東尻池から新川までの本線（一九〇〇メートル）と支線（七三〇メートル）を合わせて総延長二、六三キロ、水面幅十五〜三九メートル、満潮時の水深三、六〜四、〇五メートル、ほかに船溜りが二カ所である。そして完成後一日八五〇隻から二銭五厘〜三〇銭の通船料と埋め立て地の地代徴収を見込み

二十九年十月に起工式をして明治三十一年に完成した。  
(この間の経過と、池本・八尾両氏の開鑿にまつわる苦  
勞話は、「神戸開港三十年史」並びに「雪」14巻5号に  
詳細に載っているので割愛する)

明治三十七年、日露戦争の際には、この運河より兵  
器、兵隊が出航した例もあるが、この運河はその港への  
位置関係により多くの倉庫、木材会社等の正業が腰をす  
えた。

そして大正八年、兵庫運河と、明治のポートランドと



高松橋にある創立者・八尾四郎の銅像

もういべき、運河の土砂で埋め立てた荻藻島とが神戸市  
に移譲され、神戸市はこれに対して、荻藻島南岸に護岸  
工事を施し、同島寄州を東西に横断する荻藻運河を開き  
現在の新川運河から荻藻運河に通じる体裁ができたので  
あった。しかし、時代と共に船舶が大型化し、和田岬を  
廻ることがそれほど危険でなくなり、又、兵庫突堤の完  
備と共に舳が避難場所を見つけ、それは、運河にかかる  
和田岬線のレール橋付近の狭隘さを見れば、既に航行す  
るといふ機能が完全に失なわれていることが判る。

昭和二十四年、貯木場運河面積一七五〇〇㎡、昭和三十  
八年、同六二五〇〇㎡。この数字は、明らかに現在が  
貯木場としての機能に於て効果的なのだ。そして運河の  
中央、字の表わす如く材木町に位置すると、運河水面一

杯にひろがる輸入の原木は、圧倒的なばかりの量感で迫  
まってくる。

そしてこの巨大なエネルギーを投じて開鑿したこの運  
河は今やそのエネルギーを、沸々と湧き出るメタンガス  
となつて運河面に模様をつくり、そしてその悪臭は立派  
な公害であるうが、それは工場の排水もさることなが  
ら、下水道が流れ込んでいる原因に帰する。しかしなが  
ら皮肉なことに、運河の潮が汚染していればいるほど、  
原木の第二の故郷としては適するといふのだから、現今  
の貯木水面と貯木量が拮抗している限り、運河は汚染す  
る他ない。そして確かに操業率60多程度の工場が西側に  
点在し、かつ製粉、製油工場があるにしても、この運河  
がただそのための有効な水路にしては、完全に飽和状態  
にあるといえる。現在は、神戸市が神戸市貯木場運営協  
同組同に使用許可を与えているのだが、その組合が三〇  
〇余名にして限度であるを思えば、既にこの地区の  
材木業としての発展も、他に流通手段を設け回転率を良  
くしない限り、将来に発展の余地をなくす。

沢本博夫の父親は、運河沿いの製粉工場で真白になつ  
てトロッコを押していた。その工場がそこに位置する限  
り、息子と同じく運河と共に生きていくといえるだろう  
が、現実には工場の運河への依存度が減少し、むしろ陸上  
交通により開いた販路を持ち始めると、そのトロッコの  
労働量は増えるであろうし、そして沢本博夫もやがて陸  
に上がるかもしれない。それは運河そのものの抒情をう  
ちすてるだけでなく、運河機能の再検討に発展するであ  
らう。そしてその時はじめて、兵庫地区主体が、地区  
の特色を生かして、かつての湊川が川沿いに文化を形成  
していったように、南北の軸で開発が計られ、その終点  
が運河のターミナルとして最大限に活用される日が日程  
にのぼるだろう。それは、大輪田の泊、兵庫の津、築  
島、運河、湊川と、歴史に残る人力の結晶した土地だけ  
に、そして、神戸の発祥地であるだけに昭和の大事業と  
しし真に意義あるものとなるう。(編集部・岡本邦彦)

## 瞳の装いに

こんなおしゃれは…？



### ロイヤルグレーレンズ

太陽等の紫外線によって除々に美しいグレーに変化し、室内に入るとゆっくりと渋いカラーに戻ります

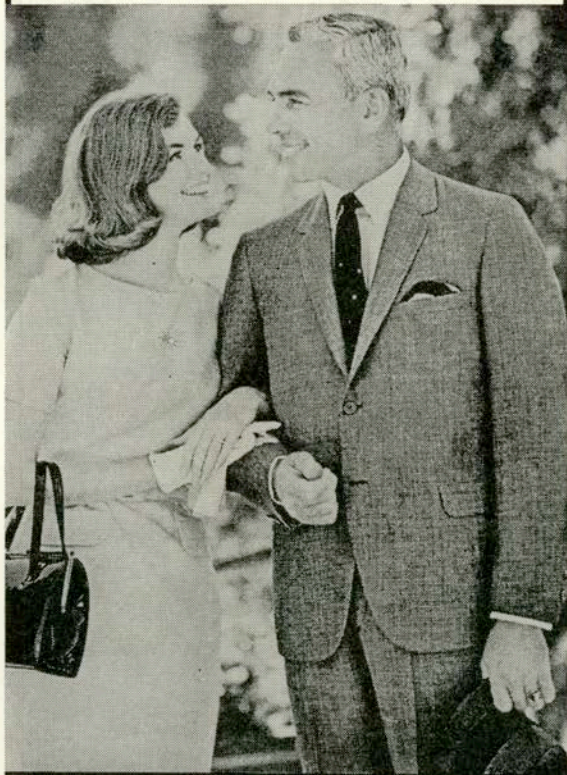
一組 5,000円より

 **神戸眼鏡院**

元町店・元町3丁目 ☎③1212代表

三宮店・さんちかタウン ☎③1874～5

「本格派のおしゃれなあなたが好き」



## O-SHIBATA



### 柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 神戸 34-0693  
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106

# Happy Wedding

幸せな  
二人の門出に  
ゴンチャロフの  
ファンシー  
チョコレートが  
あま〜い二人の  
未来をお約束します。



チョコレート\*キャンデー

## ゴンチャロフ

本社 神戸市生田区加納町4の1 TEL(99)-2636  
直売店 さんちか・スイーツタウン TEL(99)-3563



ブラウス  
\*  
セーター  
\*  
ランジェリー  
\*  
スーツ  
\*  
ワンピース



## スギヤ

トア・ロード市電大丸電停前  
TEL (33) 3436  
六甲店・阪急六甲駅  
TEL (87) 2731(呼)

## 経済ポケット

### ジャーナル

#### ★惜しまれる

#### 三洋電機井植歳男会長

今年の本誌新年号の経済対談で元氣な姿を神戸っ子に紹介した、三洋電機の井植歳男会長(66)が、七月十六日国立大阪病院で脳溢血のため死去された。通夜は神戸市垂水区塩屋のジェームス山の自宅で、十九日に社葬が守口市の守口市民会館で、続いて告別式も行なわれ、一万余の人々が葬儀に参列した。

井植氏は、兵庫県津名郡淡路島の出身で、松下電器の松下幸之助氏の義弟。昭和二十二年に三洋電機を設立「世界のサンヨー」にまで名を高め、四十二年一月に実弟祐郎氏に社長をゆづって会長に就任し現在に至っている。

大阪井植学校を開き、大



故井植歳男氏



阪の若手経済人に慕われ、また昨年より神戸にも井植学校を開いて、大阪・神戸の若手育成にも力を尽した。

淡路フェリーをはじめ、とくに地域開発にも力を入れ、これから淡路国際空港架橋問題など関西経済界の未来を考え実際に推進する原動力として活躍が待たれていただけに井植会長を惜しむ声が大きい。

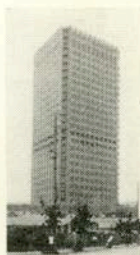
#### ★神戸商工貿易センター 続々と入居が決まる

神戸の空にモダンな姿を誇示している西日本随一の超高層ビル、神戸商工貿易センターも、今秋十一月十日に竣工する。

注目される企業の入居状態は、株式会社神戸商工貿易センター営業課長の河野琢也氏の説明によると、八月十日現在で、企業名は公表できないが、契約済は七十六社、この調子で行くとオープン時が六十%ぐらいの入居率(約九〇社)で、

百%入居は三年後になるとのこと。

その企業の内容は、神戸在籍の中堅商社が圧倒的で本社機能をビル内に移すこととなる。なかには大阪、東京からの支店も若干ある。なお、官公庁関係で入居が決まっているのは、神戸商工会議所、JETRO、国際電々公社、神戸通商事



神戸商工貿易センター

務所、神戸普通郵便局、神戸貿易協会であり、他に輸出入組合、経済団体がそれぞれ申し込んでいる。金融機関としては神戸銀行が支店を設けることになる。

情報時代に先がけての貿易センターであるが、オープン段階ではコンピュータ

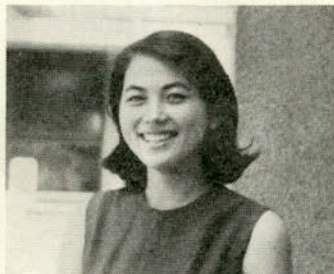
ーを使った計算センターが設けられ、貿易関係の史料室ができるが、利用者の態勢と共に情報センターとしての機能が發揮されるであろう。

一般市民の利用方法としては、26Fの展望台があるが、喫茶の方は大丸系のピロコックが店開きが決まりレストランは現段階では未定。また語学学校を開校する申込みもあり、11Fには医療センターができて、内科、外科はもちろん、散髪屋も含まれる。

併設館として十一月一日にオープンする産業貿易展示館は、貸しショウウィンドウもあるが、開館当初はそこがきまっていた。呉服、洋装、舶来雑貨店の申込みがあいついでいるそうだ。

なお、神戸市交通局の話では、貿易センター前にバスを停まらせるべく運行経路を考えているとのこと。

#### ★ KOBE オフィスレディ ★



奥田 眞美 (20)

〈ウシオ工業株式会社秘書課〉

今年3月から秘書課勤務だが、167cmという彼女の体格と人なつこい微笑みは、来客の視線を捉えて離さないだろう。趣味は、と聞かれて一瞬とまどうほどだから、実際はしたい事がたくさんあって困るという年頃だろうやさしく、しかも自分より背の高い人がいいワ、と希望をのべた。姫路短大卒、西宮在住



▲八幡線街路より 六甲山を見る



▲国鉄六甲道北口の商店街



▲八幡神社越しに 大阪湾を見下す

▲はじまった市街地改造事業による仮設店舗

六甲埠頭と六甲の副都心をつなぐ東の軸は、神戸の3本の都市軸の一つです。

六甲埠頭は、まだ計画もはっきりしていませんし、もちろん着工されていませんが、六甲の副都心づくりの方は、すでにスタートがきられています。国鉄六甲駅前を、市街地改造事業という手法で再開発しようという神戸市の計画がそれです。

国鉄六甲駅前を南北にひきのばすと、北は阪急六甲駅前、そして、南は阪神新在家駅前です。そしてこの三つの駅を、都市計画街路八幡線(巾員20m)がつないでいます。

この道路と国鉄の立体交叉は、今回の駅前改造が目的としているものの一つですが、阪神電鉄との立体交叉はすでに完了しています。この次は阪急との交叉の処理だけが残っています。

東の副都心の構成は、この三つの駅前中心の特徴とその組合せに焦点があるべきです。

駅前広場のデザインは、各電車の車体の色が違うように、それぞれ個性的であるべきでしょう。そして、それをつなぐペDESTリアンウェイは、六甲山の緑・八幡神社の緑をつないで、はるかに大阪湾を眺めわたすことのできる空中歩廊であってほしいのですが……。

神戸のアーバンデザイン ③〇  
六甲副都心軸の個性

水谷 顕介 + チーム・UR



神戸のモダンリビング③  
コミュニティの環境と施設  
その3

水谷顯介+チーム・UR

比較的日常的な関りあいをもつ施設と、生活のエポックとしての場に対応する施設の二つの対比が考えられますが、レジャー関係の場は後者のものとして、これからの必要性がますます重視されてくるでしょう。

特にレジャーといえは、満員電車でゆられてゆくもの、何か遊び道具が必要なもの、という観念が支配的になっていて、地元の中で楽しみをもったり、憩いを求めたり、ということが少なくなってきました。

また、景色にも恵まれ、食べものもおいしい神戸には、沢山の人ははるばる押しかけてきますが、それらの人々には、地元の地区の住民とは全く関係のないお客様となってしまう。そこで、一つの施設が、地元の人々との出合いの場の役割を果たすような形で利用されることが考えられないでしょうか。民宿が大流行なもの、ある意味では、いままでのレジャー施設の人間関係に組み込まれないあり方が、大きな一つの要素になっているともいえます。

素晴らしい景色と、波の音がま近に聞こえる松林の中に、国民宿舎須磨荘があります。このような公共的な性質の施設が、ただ宿を提供する場としてだけでなく、広い意味での都市の民宿の場のような使われ方をされるようになるのも一方法だと思われれます。  
〈高月昭子〉



▶ロビーは人々の出合いの場



▼松林と海が目の前に開けている和室



# ☆技術ジャーナル

## 地すべり

諸岡 博 熊

〔神戸市企画局調査部副主幹〕

西名阪国道が開通してまもなく奈良・大阪の境にある亀の瀬地区の地すべりで、交通機能が障害をうけたことを紙上で知らされたことと思う。この地すべりでの影響は、①地すべり末端部の隆起がもたらす大和川本川閉塞、②同じく国道二十五号線、西名阪国道の交通機能障害、③関西本線明神山トンネルの庄壊の危険性、④地すべり地区内の民家二〇戸、耕地、果樹園約七〇ヘクタールの被害などがあげられる。亀の瀬地区は「地すべりの宿命」地帯といわれている。

十五号線を十メートルも隆起させ、交通機関に多大の被害をもたらした。

× × ×

地すべりというものは、山腹にある岩層の一部が継続的に徐々に低所に向けて移動する現象をいう。これに対し、山地の基盤岩あるいは岩層の一部が突発的に急激に崩落する現象の山崩れを分けて定義づけられる。

この結果、地すべりは山崩れと異なり徐々に移動が始まり、土塊の移動の速さ



◀亀の瀬地区▶

がきわめて緩慢である。土塊の乱れも少なく、田畑の作物はそのままに、家屋も立ったまま移動する。観念

的でない方をすれば地すべりは徐々に、山崩れは急激にといえよう。

× × ×

地すべりの起こる原因は

素質的なものと直接誘発の原因となるものがある。地すべりが発生するために、地質的にも地形的にも生じやすい素質をもった地域であることが前提となる誘発の原因としては①地震で地盤がゆるめられた場合、②火山活動の噴気作用や温泉作用による地質条件の醸成、③地下水の増加は最も大きな原因と考えられる。この増加で地すべり面の土の強さが弱まり、抵抗力が減殺され、間隙水圧が増加したりして、地すべり土塊の平衡が破れ地すべりが生ずる。④降水が地中に浸透すると当然地下水が増加して原因となる。⑤地表水が地下へ浸透したり漏れたりした場合⑥流れの浸食によって、川床の沈下と横浸食は地すべり地脚部の洗堀を生じすべり出す。⑦人為的作用による切土、盛土は斜面の平衡を破ってその原因となる。

× × ×

防止するためには、地すべりの実態の調査と対策工法を決定し、防止工法を実施しなければならぬ。まず、地すべりの位置および

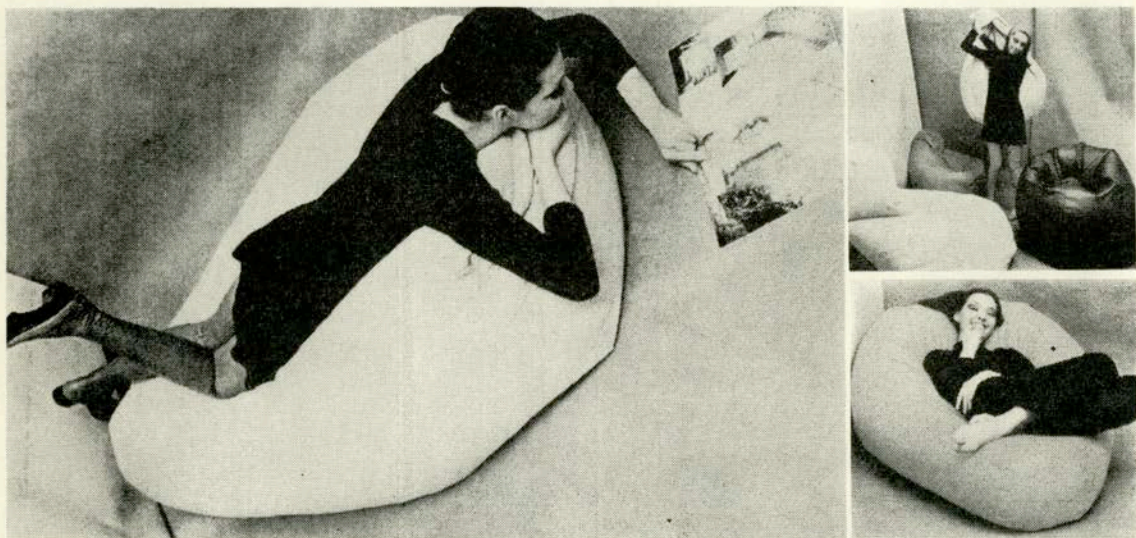
方向は、地すべり計、伸縮計、傾斜計などで観測する。亀裂位置や拡大量を調査する。三角法と航空写真を利用して移動杭の観測をする。地震法、電気法などの物理探査を行なう。つづいて、地すべり面の形状と深度を調べるためにボーリングを行なったり、地中歪計による測定や地下水の調査を行なう。とくに、地下水による凝灰（角礫）岩層の粘土化しているところは入念に調べる。これらの基礎資料をもとにして、地すべり対策工法を検討する。

地すべり対策工法として

- ① 排水工
- ② 浸透水防止工
- a 地表排水路工、b 漏れ防止工
- ③ 地下水処理工
- a 暗渠工
- b 排水トンネル工
- c ボーリング排水工
- d 集水井による排水工
- ④ 抑止工
- a 擁壁工
- b 樁工
- c 杭打工
- ⑤ 浸食防止工
- a 砂防ダム工
- b 床固工
- c 護岸工
- d 水制工
- e 導流堤工
- f 捷水路工
- g 河川の付替工
- ⑥ その他
- a 地下水遮断工
- b ガス抜き工
- c 焼却法および電気浸透法
- ……などの防止対策工法がある。

まいるーむ まいしよっぷ

これが家具ですって？



不謹慎だなどといわないでください。

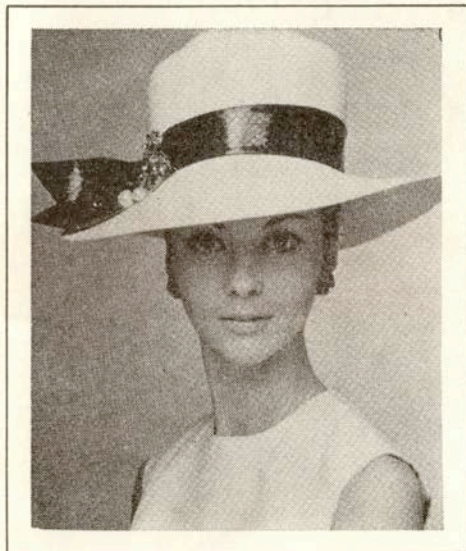
あなたもこんな姿でくつろいでみませんか。

あなたを、やわらかくサポートしてくれますよ。

インテリアデザインは、常にあなた自身が主役です。



マキシンの帽子で  
美しいあなたを…



マキシンの帽子のおもとめは  
全国有名百貨店でどうぞ!

婦人帽子

マキシ

神戸・トアロード 東京・銀座3-2  
TEL(078)33-6711-3 TEL(03)535-5041

シックなあなたを  
創る装苑



Soen 装苑

藤井 まつ子

大丸前店-生田区三宮町3丁目17 (33)7550  
京町店-生田区三宮町1丁目17 (33)2038  
六甲店-灘区將軍通3丁目16 (87)8303